

平成28年度

伏見区区民活動支援事業

活動事例集

～区民が主役のまちづくり～



伏見区役所・深草支所・醍醐支所



京都市
CITY OF KYOTO

皆でつくる
すむまち 伏見



～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、同事業の採択団体による「区民が主役のまちづくり活動」を、より多くの皆様に知っていただくことを目的として、また、団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

目次

- 1. 伏見区区民活動支援事業の概要 P1
- 2. 平成28年度採択団体一覧 P2～P3
- 3. 巻頭インタビュー P4～11
- 4. 採択団体の取組紹介 P12～28

1

伏見区区民活動支援事業の概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動にかかる経費の一部を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、伏見区長が決定します。

① 補助金上限額

一般枠 上限60万円(必要事業経費の2分の1以内)

小規模枠 上限15万円(必要事業経費の5分の4以内)

② 申請・採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
一般枠	20事業 (9,704千円)	14事業(6,747千円)
小規模枠	34事業 (4,474千円)	23事業(3,020千円)
合計	54事業(14,178千円)	37事業(9,767千円)

参考：過去の採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
24年度	26事業 (7,483千円)	19事業(4,946千円)
25年度	39事業(10,504千円)	33事業(8,400千円)
26年度	40事業(10,309千円)	33事業(8,142千円)
27年度	53事業(14,052千円)	33事業(8,393千円)

2

平成28年度採択団体一覧

巻頭インタビュー掲載団体

団体名	事業名	掲載頁
伏見・お城まつり実行委員会	伏見・お城まつり2016	4.5
ももネット	～認知症につよいまちづくりの輪～	6.7
生きいきお出かけ応援プロジェクト	生きいきお出かけ応援プロジェクト	8.9
醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会	古写真で知るわが町の歴史 「醍醐古写真展」	10.11

①一般枠

団体名	事業名	掲載頁
横大路まちづくり協議会	横大路まちづくりフェスティバル	12
伏見区砂川学区自治連合会	学区民の生活史発掘共有化プロジェクト	12
川魚文化再興プロジェクトチーム	伏見オリジナルの川酒菜文化の創出、 及びその確立のための枠組みづくり事業	13
特定非営利活動法人 史料データ保存ネットワーク	古文書で伏見の歴史を再発見!	13
特定非営利活動法人 伏見板橋よいまちづくり	みんなで創ろう「伏見ふれあい未来館」	14
墨染活性委員会	墨染地域活性化	14
黄華堂再発見プロジェクト 実行委員会	日本初!!天体観望会の地・伏見 -見て×作って×歩いて=学びの場づくり-	15
伏見子ども阿国(おくに)歌舞伎 実行委員会	伏見阿国(おくに)歌舞伎の再現プロジェクト	15
伏見区における地域と商店街の 連携推進支援事業実行委員会	伏見区における地域と商店街の 連携推進支援事業	16
特定非営利活動法人ちいろば	よろず相談	16
向島駅前まちづくり協議会	向島ニュータウンの再生と健康福祉の まちづくり推進事業	17
桃山プロジェクト	みどりのまちづくりプロジェクト	17
コトーハイツ伏見稻荷きずなづくり事業 実行委員会	集合住宅と地域を結ぶ多世代交流居場所・ きずなづくり事業「ことはいカフェ」	18

②小規模枠

団体名	事業名	掲載頁
御霊ヶ下・大構町内会	「さんあいしんばん」の発行	19
ちえのわ	認知症の人のもそうでない人もみんな ずっとこの地域で暮らして行ける	19
下鳥羽自治連合会	災害の教訓に学ぶ 冊子の制作事業	20
淀催事の会	第一回淀夏祭り	20
藤森神社ラジオ体操の会	藤森神社ラジオ体操の会	21
久我の杜交通安全推進委員会	児童通学路交通安全対策及び車両に 対し啓発活動	21
久我・久我の杜・羽束師地域 まちづくり協議会	神川出張所区民交流スペースの展示物のリニューアル (地域の歴史・文化の発掘・発信活動)	22
鴨川運河会議	鴨川運河 ～発見・発信&発進～	22
伏見ロコモ予防クラブ	地域力で行うロコモ予防	23
アジア・アフリカとびっきり映画祭 実行委員会	向島多文化交流	23
五感でごはん実行委員会	五感でごはん ～親子で体験 食育プロジェクト～	24
だいがキャンドルプロジェクト	地域の人と人をつなぐだいがキャンドル	24
京都橘大学 地域連携センター	醍醐中山団地での交通安全教室	25
笑顔いっぱい会	子育て支援と異年齢の交流を行う	25
久我自治連合会	久我やすらぎルーム	26
久我土ん子クラブ	久我食育推進事業	26
伏見楽舎	ヨシ灯り展	27
お話の会 すずらん倶楽部	高齢者施設を訪問し、朗読・読み聞かせ等を通 して「笑顔のふれあい活動」	27
チーム・ノーマライゼーション	パネルシアターの制作と実演	28

※各枠ごとに申請順に掲載しています(インタビュー除く)

3 巻頭インタビュー

伏見・お城まつり2016 <<伏見・お城まつり実行委員会>>

連絡先 ☎ 0774-25-2475 (小林)

伏見のシンボルである伏見桃山城を会場に、かつての伏見城や城下町・伏見の歴史に光を当て、伏見のまちを元気にすることを目的に、今年も「伏見・お城まつり」が開催されました。3年目となる今年は、城にちなんだ甲冑隊による殺陣ショー、歴史を感じることでできる体験型の催しや展示に加え、楽しいパフォーマンスや福祉団体をはじめとする伏見区に関係する人たちが出店する模擬店等が充実したこともあり、来場者も8千人を超える賑わいとなりました。実行委員長の京都文教大学総合社会学部講師、小林大祐さんにお話を伺いました。



天候にも恵まれ賑わいました



高校生もブースを出しました

活動インタビュー

発端は

「私が関わった経緯ですが、『伏見をさかんにざっくばらん(※)』で活動していたチーム「お城マップ」が、伏見桃山城の50周年を記念するマップを作成する際に、建築史や都市史を専門としている私に監修を依頼されたことがきっかけです。完成したマップを使ってお城歩きを行ってみると、お城の知名度は高いけれど、秀吉が当時の伏見城を築き盛大な花見をしたことなど、かつて城下町として栄えた伏見の歴史のことはあまり知られていないということがわかりました。そこで、現代版の花見をして、区民の皆さんに歴史を知ってもらおうというアイデアが出てきました。」

2014年の4月に企画した花見は雨天で中止となってしまいましたが、せっかくのアイデアなので、同じ年の秋にお城まつりという形でイベントを実施したそうです。

(※伏見に縁がある人々が集まり、それぞれのアイデアを持ち寄り、魅力あるまちづくりに取組む「まちの語り場」)

お城まつり開催!

実行委員会のメンバーは、チーム「お城マップ」のメンバーを中心として全部で30人ほど。

「この時はなかなか周知が至らなかったにもかかわらず、なんと4千人もの方に来ていただくことができました。しかし、飲食物が十分用意できず売り切れてしまう模擬店が続出したり、アクセスする道路に来場者の車が連なって渋滞し

たりなど課題も多く、人数規模が読みきれなかったことが大きな原因でした。」

それらを踏まえ、昨年の第2回からは模擬店を増やし、無料シャトルバスを運行するようになったそうです。

特筆すべきは、メインとなるステージがお城をバックにした広場ということです。「下手にステージを組むより、城をバックにすれば広場がスケールの大きい舞台となり、とても見栄えがいいんですよ。人数の多い『京炎そでふれ』の踊りなど、この場所にとってもなじんでいましたし、学生たちも素晴らしい場所で踊れたと喜んでいました。近畿一円から参加してくれている武者やお姫様からは『あの伏見城の前で演舞ができるのがこの上なく楽しい』と第1回目から参加してもらっています。」

このメインステージを中心に、公園の至るところに模擬店が出店し、来場者が散策をしながらゆっくりおまつりを楽しめるような内容となりました。また、天守閣の1階では発掘品の展示も行い、伏見の歴史を伝えるコーナーも設けました。おかげで2015年は8千人、2016年もそれを超える人数が来場したそうです。



遊びのコーナーも大人気



お城をバックに「京炎そでふれ」のパフォーマンス

伏見の求心力に

今後のお城まつりがどうなっていくのか、お聞きしました。

「来場者からはおまつりを続けてほしいという声をいただいています。特に『天守閣に登れるようにしてほしい』という声をたくさんいただいています。伏見区のみなさんは、ここにあった伏見桃山城キャスルランドに子どもたちの遊びに来られた方も多く、お城に親近感を持たれているようです。3年間やってみて、やはり伏見で『お城』というのは求心力を持っていると実感しましたので、ぜひ継続して開催していきたいものです。」

将来は伏見の歴史を知ることができる資料館として天守閣を活用したいとのアイデアもあるそうです。

「模擬店やステージのパフォーマンスはかなり充実したので、大きくは変えずに、今後も地元区民を中心にやっていきたいです。課題は区の支援事業のお金が今年度までということで、来年は寄付集めを一層拡大しなくてはなりません。」

他にも、今のシャトルバスの台数ではお客さんが乗りきれないとか、当日のボランティアスタッフが足りないとか、課題はあるそうです。

しかしこれだけの規模のおまつりを区民が主体になって実施し、手づくりの「区民まつり」となっていることは驚きであり、やりがいも大きいでしょう。昔、お城で遊んだ世代だけでなく、今伏見で育つ世代にとっても、お城まつりを通じてお城が「心のよりどころ」となっていくのではないのでしょうか。



ゆるキャラ「伏見もも丸」も登場です

3 巻頭インタビュー

認知症につよいまちづくりの輪 《ももネット》

連絡先 ☎075-605-4707 (中西)

桃山中学校区で発生する介護・福祉・医療等の健康相談は年間5千件以上。2025年に日本人の5人に1人が75歳以上となる「超高齢社会」を迎えると、医療や介護、福祉をめぐる状況が大きく変わり、住民が抱える問題も増えると予想されます。

認知症等の高齢夫婦が互いに介護する「認認介護」の大変さや、認知症による高齢者の行方不明等、現場で起きている課題を解決したいという思いで、平成27年に「ももネット」は立ち上げられました。今では桃山地域以外からの参画もあり、医療や介護、福祉に関連する22の法人与地域に暮らす住民の方々、約30名のメンバーが毎月集まり、現在3つのチーム活動を展開しています。今回「ももネット」代表の吉田明子さんと事務局を担う中西哲也さんから話を伺いました。



代表の吉田明子さん(右)と事務局の中西哲也さん(左)



会議の様子

活動インタビュー

チーム活動① 普及啓発チーム

「普及啓発チーム」では、地域住民や学生、商店主などを対象に、認知症の理解を深め、認知症の方やご家族を支える方法を一緒に考えるために「認知症サポーター養成講座」を随時開催したところ、1年間で約370人が受講しました。様々な機関や職種から集まる「ももネット」のメンバーが講師などで参加することにより、医療面、接し方のポイント、地域での支え方等をより深く講義することができ、様々な専門性の視点を交えて検討できることが大きな強みになっています。受講者が「ももネット」の活動に参加するなど、活動に広がりができることを目指して、今後も講座を開いていくそうです。

また、街頭啓発活動やSNSを活用した情報発信、そして認知症サポーター養成講座にバザーを併設するなど、より多くの人が参加できるよう試みました。



地域向け講座開催中

チーム活動② 居場所作りチーム

「行きたいと思える場所が近くにある」を目指し、身近に集まれる「居場所」を地域の中に作り始め、今では5つの居場所「サロンド・ももやま」ができました。「支援する側、される側」ではなく、一緒に「自分の居場所」を作っていくことを目指しています。それらの居場所作りは「健康長寿のまち・京都 いきいきポイント」とも連携しています。



みんなで太極拳

チーム活動③ SOSネットワークチーム

「SOSネットワークチーム」は認知症により行方不明になられる方々を地域で温かく見守れる環境づくりと体制づくりを進めるためにネットワークを広げています。将来的には世代や病気にとらわれず、子どもから高齢者までネットワークの幅を広げることを考えています。毎月行う搜索訓練では、「ももネット」の事業所だけでなく、伏見警察署や京阪電鉄、民生委員と合同訓練も行ってきました。訓練で得た気づきを翌月の訓練に活かし、実際に行方不明者が現れた時に迅速な行動ができるよう備えています。



搜索模擬訓練の様子

活動メンバーのやる気につながる行政サポート

「区民活動支援事業を通じて行政とのつながりが生まれたのはありがたいです」と吉田さんと中西さんは声をそろえます。

「ももネット」の活動が市民しんぶん伏見区版で紹介され、「ももネットNEWS」が区役所などに配架されて、自分たちの活動が知られつつあると手ごたえを感じた他、区民活動支援事業採択団体を対象とした「進捗状況報告会」で、地域力推進室職員からアドバイスを得たことで「後ろ盾がある!」と心強く感じたそうです。

活動助成金について「補助金は後払いではなく前払いしていただけると、情熱があってもお金がない区民もまちづくりを始めやすいのでは」との提案も聞かれました。「ももネット」では、コンサートを開いてチケット収入を活動費に充てたり、養成講座開催日にバザーを行って活動資金を得るなど、自己資金を得る工夫をされていました。

「ももネット」では、活動相談や広報において行政とのつながりが続くことを期待しつつ、支援事業終了後の自立運営を見据えた活動をしています。

活動を通じて桃山地域の介護、福祉、医療に携わる事業者はもちろん、地域の方々とこれまでになかったつながりが持てるようになりました。認知症をテーマに始めた活動は、突き詰めれば病気の有無や年齢を問わず、誰にとっても優しいまちになると気づいたそうです。日々の暮らしを温かく見守り、支え合うネットワークが桃山地域に広がりつつあります。

3 巻頭インタビュー

活きいきお出かけ応援プロジェクト 《活きいきお出かけ応援プロジェクト》

連絡先 ☎090-3628-9970 (代表:勝部)

『お出かけしたい!』を諦めないで…。そこから活きいきライフが始まります～ 「一人でも多くのお年寄りを外に出してあげたい」から始まったプロジェクト

「外の空気が吸えてよかった…」, そんな一言が聴ける「活きいきお出かけ応援プロジェクト」は, 2015年7月より伏見区の区民活動支援事業の助成を受けて始まった。身体的な不自由や経済的な困難など様々な要因で「お出かけがしにくい高齢者を一人でも多く外へ」をコンセプトに, 介護福祉士の資格を持つ勝部さん達が立ち上げた事業だ。介護保険で基本的な生活支援は可能だが, 本来の意味での生活意欲や生活力を育むところが, 保険では対応しきれない。人が活きいき暮らしていくことの基本は, もっと文化的なところにあるのではという素朴な思いから「活きいきお出かけ応援プロジェクト」は生まれた。



活きいきお出かけ応援プロジェクト
代表・勝部恵子さん

活動インタビュー

花咲くには少し時間がかかるけど…

始めた1年目, 地域にある高齢者福祉関連団体や利用する人にはなかなか浸透せず, もどかしい思いをしたという。しかし2年目になり, 地域を絞り拠点づくりに取り組んだところ, 人間関係がつながり, 声がかかるようになった。「高齢の方との関わりは, 信頼関係があって, 初めて我が身を託してみようと思える。普段から身近にいる人の誘いが一番効果的」と勝部さん。それまではどんなにお誘いをしても応じなかった人が, 2年目になって「ちょっと行ってみようかな」となる。きっかけは, お世話になっているケアマネさんの勧めだったり, 持病の症状が安定した時など「それぞれのタイミングで, ぱっと花開く時がくる」と語る。時間はかかるが, その一人ひとりの物語が面白いと感じる。例えば, 10数年外出していなかった方が「家の周りを散歩してみたい」と, この活動を介してお出かけを実現。勝部さんが驚くほどに, ご近所のことを記憶していたという。またある人は, 「生まれも育ちも京都なのに, 観光地に行ったことがない」と言い, 南禅寺へのお出かけを希望。当日迎えに行くと準備がまだできていなかった。実は気乗りしていないのではと思いつつ気長に待っていると, 大きな鞆を持参されたとのこと。中にはたくさんの「おやつ」が。「子どもの遠足みたいに楽しみにしていたみたい(笑)」。そんなエピソードが「語りきれないほど沢山ある」という。

毎回ののお出かけ時には利用者の名セリフが生まれる場でもある。勝部さんは, その一言一言を大事に書き留めメモし, 他の人にも伝えたいと話す。



実際のお出かけ。買い物に付き添い

一方的な関係ではなく, それぞれに学び合えるものがある

このプロジェクトは, 勝部さんら有資格者や経験者と学生・地域の方などボランティアの2名体制(時に家族も参加)でお出かけ当日, 利用者宅へ迎えに行き目的地に向かう。若者との外出を楽しみにする高齢者もいる。ボランティアで参加したが, 緊張がほぐれない学生に「気楽にしてよ」と声をかけるなど, 高齢者と若者の交流が生まれたり, 一人ひとりの心に寄り添って接していると, 「何かに触れること, 学ぶこと」が必ずあると勝部さん。「やらせてもらっているありがたい取組です」と語る。

コツコツ地道に取組を重ねていった結果, 勝部さん達の活動に対する周囲の反応も変わってきた。1年目はこちらから売り込みにいっても慎重な姿勢だった地域の福祉関連団体からも, 2年目には「ケア会議に来て…」と声がかかったり, ケアマネから利用したいと申込みがあったり。今後はこうした連携を密にしながら, より一層「高齢者の生活を少しでも豊かにしていくこと」を目指していきたいと話す。



坂のある橋を使った実習

自分の得意なことをちょっと活かすこと, それでいい

お出かけや買い物を手伝いたいけれど, もし高齢者に何かあったら…と躊躇される人がいると思う。この活動を通して, 自分のちょっとしたことが活かせるということを知ってもらえたら。ちょっとした付き添い・声かけ・お喋りなど, ‘ちょっとしたこと’が高齢者の暮らしを驚くほどに豊かにする。勝部さん達は深草・藤森・藤城地域を中心に, 応援スタッフ育成を目的とした「出前学習会」を実施。高齢者支援や介護保険のこと等を学んだ後, 地元のスーパーや踏切, 坂のきつい場所で実習も行う。商店街や市民が主催する地域イベントとも積極的に連携し, 車椅子を使って高齢者の買い物や外出に付き添う。長時間の外出となり「お疲れでは?」と聞いても「大丈夫」と高齢者。確実に「元気の源」になっている。

勝部さんはまた, 外出に欠かせない散歩道やお買い物の道中に, 疲れたら休めるような「ベンチ」があるとお出かけもしやすいと, ベンチや憩いの場所を作るまちづくり活動グループとも連携した取組を現在展開中だ。これからも出来ることから一歩一歩進めていきます, とのこと。



応援スタッフ出前学習会・ふかふか家にて

古写真で知るわが町の歴史「醍醐古写真展」 《醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会》

連絡先 ☎080-3032-0933 (徳光)

地域の歴史と文化を継承し、多くの人に伝えていくために、古写真の展示会などで活躍されている「醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会」の皆さんに、活動の考え方や工夫を取材させていただきました。



取材に応じてくださった会のメンバー



醍醐小学校での写真展の様子

薄れゆく歴史あるまちの姿を、大切な財産として次世代へつなぎたい！

事務局長の徳光さんは、京都市文化財マネージャー（建造物）で、ご自身のお住いである醍醐地域で、その専門知識を活かして歴史的建造物の調査や保存を考える活動をされたり、地域の歴史を調べるサークル等に参画したりしてきました。その過程で出会った仲間とともに、2015年1月に会を結成することになりました。

この団体の活動には、「醍醐の歴史や文化、景観や風土は、醍醐の人はあまり言わないけど、実はいいものがたくさんあって。でも一度形がなくなると、記憶からも消えていく。もったいない。できるだけ後世に残したい」（徳光さん）という願いが込められています。

この願いを実現するための1つとして、まずは地元の醍醐小学校と協力し、PTAの保護者に向けた研修で講座を持つこととなりました。その講座で醍醐地域の歴史を伝えるために、地域の古写真を示して説明したところ、大変好評だったそうです。この経験から、その写真を使った写真展の企画が立ち上がったそうです。

写真展は、元々地域の歴史を知ってもらうことが目的でした。しかし、そこで思わぬ成果が生まれました。それは、展示会に集まった人たち同士で「プチ同窓会」が始まったことでした。古写真を集めてみんなが見ることで、思い出話ができたり、つながりが再生されたり、地域への愛着を強めるきっかけとして作用したそうです。

今後は、この成果をステップにして、「プチ同窓会」を超え、過去と現在をつなぐ古写真を集めた写真集を作ることを目指して、公開型の講義に展開していく予定とのことです。

うまくいく活動の「秘訣」とは

このように、高いアクティビティを発揮して、地域の財産を形にしていく「醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会」のみなさん。その秘訣は何でしょうか？

「語り場であることかなあ。ただ、おしゃべりの場は大切だけど、目的の無いおしゃべりの場より共通の目的やテーマをおしゃべりしあうから楽しいですね。」（太田さん）

「写真展は大変だったけどやりがいがあった。自分が楽しいと思うことが大事です。その上で、誰かの為になること。それが一人や二人であったとしても、99%は無関心でも、その一人や二人のためにやるほうが、結果として多くの人に共感を得るものになる。むしろ、人の為にやろうとするとできません。」人の為」と書いて、「偽り」と読むんですよ」（山田さん）

「無理に人を集めようとするより、なんであの人は楽しそうなんだろう？というくらいがいいと思います」（徳光さん）

まず気の合う仲間と一緒におしゃべりできる、居場所的な楽しさや安心感がありながら、同時に、メンバーが共通して探求する目的があること。そして、決して犠牲的に不特定多数の「みんな」のためにしてしまうのではなく、自分自身楽しみながら、具体的な「誰か」のためにするようにすること。いきいきと楽しく活動続ける上で「醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会」のメンバーが語ってくださった心構えは、大事なことだと感じました。

結びに

今回の取材は、事務局長の徳光さんのご提案で、メンバーのご自宅で、メンバーが一同に介する座談会という形で行われました。取材する側としては、たくさんの方に集まっていただくのはのびないなあ、と少し恐縮だったのですが、仲間同士集まって語り合うことを楽しまれているようで、取材させていただく記者もとてもリラックスしてお話できました。

まちづくりには、こういう楽しさも大事なんだ、ということが、これから補助を受けようとする他の活動団体の皆様にも伝わればいいなと願っています。



メンバーが集まって座談会形式で行われた取材



和気あいあいとした雰囲気



豪農の旦那衆



醍醐高畑の開墾の様子

横大路まちづくりフェスティバル

「桂川・草津みなとはも海道まつり」 《横大路まちづくり協議会》

連絡先 ☎090-4648-7109 (岡井)

本フェスティバルを通じて、①区画整理事業推進による地域のまちづくり施策、②水害から守る地域の防災・安心・安全なまちづくり活動、③将来の横大路地域の安心・安全なまちづくり計画(ブース展示・紹介)、④区画整理事業・桂川河川改修工事のご理解・ご協力を願う周知活動など、住んで良かったと思える郷土愛を感じられる取組を地域住民のスタッフ310名が中心となり、桂川河川敷広場に設置したステージ・ブースにおいて実施しました。



昔、平安時代から明治の初めまで草津湊として栄えたこのイベント会場の河川敷広場を「草津みなと跡公園」にとの声が上がっています。



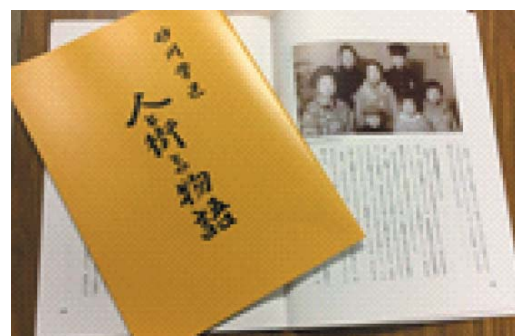
草津みなと残念石除幕式

学区民の生活史発掘共有化プロジェクト

《伏見区砂川学区自治連合会》

連絡先 ☎075-643-1166 (達富)

砂川学区は、自治活動のたいへん盛んな温かい地域です。それは、これまで地域に貢献された先人のおかげです。皆さんの苦心を語り継ぎ、昔の砂川の様子も次の世代に伝え、若い人たちが「地域に貢献していきたい」と思ってもらえるように、この人たちにインタビューし、冊子『砂川学区 人と街との物語—地域に感謝し、地域を育む—』を作りました。これを教材にして1月18日に、「シンポジウム『砂川学』事始め」を開催しました。



勧進橋の土手から「五山の送り火」が見えたとか、苦勞を乗り越えた人生経験、民生委員や老人福祉員の仕事など初めて知ったことがたくさんありました。



伏見オリジナルの川酒菜文化の創出、及びその確立のための枠組みづくり事業



《川魚文化再興プロジェクトチーム》

連絡先 ☎090-5415-7406 (藤掛)



水の街伏見は、酒と川酒菜(かわざかな)を中心に文化を育んできました。その伝統を繋ぎ、新しい川酒菜文化を創造していくことが私達の使命です。その為に沢山議論をしています。そして色々な勉強もしています。時には美味しいものも食べています。また新しい美味しさを作るために、調理の勉強もします。レシピも作ります。そんな常々の行動が川酒菜文化の伝承に繋がり、新しい文化の創造も可能となると考えています。川酒菜料理教室、討論会、試食会等色々なイベントも楽しみました。次の食文化の伝承イベントもがんばるぞ!



文化をどう伝承するか、新しくどう創造するかと、ケンケンがくがく議論をしましたが、一番良いのは美味しく食べて、感動することだということが結論となりました。正解でしょう?

古文書で伏見の歴史を再発見!

《特定非営利活動法人 史料データ保存ネットワーク》

連絡先 ☎090-1448-8572 (理事長: 向坂^{さざさか})

大切な「古文書」等の紙史料が急速に捨てられている現状があります。早急に史料の所在と内容把握をすると共に現物の保全をしなければ将来に禍根を残す事になります。逆にそれらの史料から未だ解明されていない事実が発見され、伏見の歴史として「まちづくり」に活用できるものもあると思います。我々が培ってきたノウハウを駆使し「古文書」を探し出して伏見区のまちづくり・活性化に寄与したいと考えます。現時点で5回の相談会を開催し7件の史料を確認し、現在解読中です。



「古文書無料相談会」の様子

まだまだ多くの古文書を発見する事が出来るでしょう。この事業は、2年以上継続し成果を上げたい。古文書が読める方、募集中です。



みんなで創ろう「伏見ふれあい未来館」

《特定非営利活動法人伏見板橋よいまちづくり》

連絡先 ☎075-611-0630 ✉koyamajozo@iris.eonet.ne.jp (小山)

平成28年1月22日に京都市と当団体とが旧伏見青少年活動センターの2, 3階部分を賃借する契約が整い、昨年度に引き続き、「出来ることは自分たちの手で!」をスローガンに内装工事を自分たちで行いました。

未来館は、新しく引っ越してこられた住民と、昔から住んでいる住民との交流を図り、もう一度伏見の良さを再発見する場として活用します。



ようやく工事が終了し1月に内覧会を実施し、3月にオープンする予定です。



墨染地域活性化活動

《墨染活性委員会》

連絡先 ☎075-642-4566 ✉sumizome@r-momoyama.jp (植道)

墨染に活力を!

1年を通して、高齢者を対象にピアノ伴奏による童謡唱歌のつどいを開催。有機農法で作ったさつまいもの収穫祭、絵手紙講師によるカレンダー作り、2月には、滋賀大学名誉教授豊田一成先生をお招きして、地元欣浄寺に於いて“よりよい人生をつくるメンタルトレーニング”を開催。自分や家族の高齢化に前向きにどのように向き合えば良い

か?について講演を行います。これらの総仕上げとして、毎年春には地元の墨染寺にて桜まつりを開催し地元の幼稚園、小中学生の演奏や、有志の楽器演奏、ダンス、雅楽などの演技。地元町内会の皆様のご協力でお抹茶席を設け、桜の宴を行っています。

地元墨染地域の活性の為、地域の人々が集い、心身共に元気になることを目指し、2006年、有志で委員会を立ち上げ、活動を続けています。



童謡唱歌のつどい



墨染さくらまつり 藤森中学校吹奏楽部

日本初!!天体観望会の地・伏見

一見て×作って×歩いて=学びの場づくりー 《黄華堂再発見プロジェクト実行委員会》

連絡先 ☎075-634-8113 (国分) ✉info@npo-kakehashi.org

伏見稲荷の門前町として、また伏見城の城下町として昔から大いに栄え、交通の要所として多くの人々が行きかってきた経緯から、伏見にはさまざまな歴史的文化的資源が存在しています。しかし、中には地域に埋もれたまま、忘れ去られようとしているものもあります。

そうしたもののひとつ、日本で初めて天体望遠鏡を用いて天体観望会が開催されたという「黄華堂」およびそのオーナーである橘南谿の足跡を地域住民とともにたどり、改めてその功績の今日的意義をさぐりました。また今回は、史実調査にとどまることなく、小中高等学校をはじめとする教育機関や商店街なども巻き込んだ新たな地域コミュニティの形成によって地域の文化力を高めることが目標であり、一連の事業を通じて、それらの協働先も探しながら展開していきました。

二年目の今年は、他団体と協働できる基盤づくりを行い、次年度以降の活動継続につなげたいと考えています。



老若男女の皆さんにご参加頂き、埋もれた伏見の文化を再発見出来たと思います。ぜひ、この活動を継続して欲しいとの声も頂き、持続可能な活動にしたいと考えています。



伏見阿国(おくに)歌舞伎の再現プロジェクト

《伏見子ども阿国(おくに)歌舞伎実行委員会》

連絡先 ☎FAX 075-605-0678 (岡村) ✉info@jidaiisho-okamura.com

出雲の阿国が初めて歌舞伎を演じたのは、慶長8年(1603年)伏見城に参上し、徳川家康と対面した時でした。本事業の目的は、伏見の歌舞伎を子ども歌舞伎として再現することです。演目は、江戸時代に書かれたおとぎ話「ふしみの桃太郎」を題材とした創作歌舞伎です。

毎週土曜日の午後1時~5時までの稽古を原則にして、さらに必要に応じて追加の稽古を行なっています。3月の本公演に先立ち、これまでに、練習の成果発表の場としてプレ公演会と見学会の開催、メンバー募集のためのチラシ配りを行ないました。



桃太郎が伏見で生まれた、というおとぎ話に、びっくり。演技と日本舞踊の稽古も楽しそう。地元・伏見の歴史を学ぶとともに、友達の輪も広がっています。



4 採択団体の取組紹介 (1)一般枠

伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業

《伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業 実行委員会》

連絡先 ☎075-603-1287(事務局 伏見区社協 担当:桐澤)

地域の福祉活動を生活の中心の商店街で!

伏見区内の3つの商店街を会場にして、地域関係機関による地域の福祉活動を行います。

【納屋町商店街】子育てサロンと店員向けの認知症研修会 【深草商店街】深草地域の地域活動や商店街の活性化について話し合うネットワーク「ふかくしゃべりば」の開催 【向島ショッピングセンター内MJ】中学生の学習支援と体験活動を通じた居場所づくり

今年は2年目です。これまでの取組を発表する機会を作ります!



認知症の研修は、寸劇を交えてとても分かりやすく、コミカルに実施されました。今回参加できなかったお店の方にも参加してほしいです!(呉服店・店主)



よろず相談 《特定非営利活動法人ちいろば》

連絡先 ☎075-644-5894 ✉npo.chiiroba@palette.plala.or.jp(君村)

あなたの居場所ス カサ

地域サロン(居場所)の活動を続ける中で、話を聞く「窓口」の役目が大切だと考え、「よろず相談」の看板を掲げて、何でも話せる相談屋さんを実施しています。地域の方を対象に、月曜日～金曜日13:00～15:00「あなたの居場所ス カサ」にて、ボランティアスタッフが、相談に対応しています。悩みを一緒に考えて、役所や関係機関につなげることも大切にしています。また、皆様の悩み・問題点をテーマにして専門の講師による講演会・相談会も実施しています。



講演会・相談会では「教育」、「薬」、「多文化共生」、「尊厳死」、「食事」をテーマに専門の講師の方を招いて、学びを深めています。



向島ニュータウンの再生と健康福祉のまちづくり推進事業

《向島駅前まちづくり協議会》

連絡先 ☎075-623-0939 ✉fwhs5525@nifty.com(福井)

- ①「ニュータウンの再生」に関わる連続講演会の開催—9月テーマ「京都市の学校跡地の活用」、2月テーマ「障がい者の地域での住まい方」を実施。
- ② 第10回向島ニュータウン「秋の祭典」開催—10月に“住民の交流、健康・福祉のまちづくり”を掲げ、向島ニュータウン全住民を対象に実施。
- ③「自然豊かな向島中央公園」づくりメダカ、ホタルの放流と自生を殖やすための環境保護活動と清掃活動の実施。



第10回向島ニュータウン「秋の祭典」はニュータウン全体6,000戸を対象に実施し、2,000名が参加。今後もオールニュータウンの取組としていきたい。



みどりのまちづくりプロジェクト 《桃山プロジェクト》

連絡先 ☎075-777-7713 ✉momopro243@gmail.com(藤崎)

月2回の定例活動日(第2土曜日、第4日曜日の9時45分～11時)には、南部児童公園と両替町公園の清掃、草刈り、落ち葉掃き、花壇づくりなどを行いました。また、ランドスケープや郷土史の専門家をお招きし、伏見桃山の景観まちづくりをテーマに語り合いました。また宇治川派流の自然観察ウォークと桃山トレイルのトレッキング、桃山の桃を使った生け花体験を通じて伏見桃山の自然を楽しみました。平成29年1月には京都景観賞の優秀賞を受賞しました。



公園で子供たちが走り回る姿が頻繁に見られるようになりました。私たちに挨拶もしてくれます。いろんな人たちとの交流が楽しいです。



集合住宅と地域を結ぶ多世代交流居場所・きずなづくり事業「ことはいカフェ」

《コトーハイツ伏見稲荷きずなづくり事業実行委員会》

連絡先 ☎090-1903-3347(久守) ✉jzf02757@nifty.com

「ことはいカフェ」は、子育て世代からシニア世代まで多世代が交流する居場所づくりの形成と集合住宅と地域のつながりやきずなを深めることを目指し9月からコトーハイツ伏見稲荷C棟集会所で居場所カフェを始めました。毎週水曜日・第4土曜日に開催し、「うたごえカフェ」「ものづくりカフェ(新聞ちぎり絵)」、「ふわふわ子育てカフェ(ベビーマッサージ等)」を行い、7月からのお試しカフェからこれまで延べ300名の住宅・地域の皆様が参加してくださり楽しく交流しています。



今年度新たに実施した事業であるため、住宅・地域への広報・周知に重点を置き、自治連合会の御協力のもと回覧板での周知や、京都新聞への記事提供、ちらし配架などを行いました。



★だいすきっ!京都。寄付金の御案内★
わがまち「伏見区」を応援してください!!



京都市では、全国の京都ファンの方、京都市民の方の思いを、形ある施策として実現するために、「だいすきっ!京都。寄付金」(ふるさと納税寄付金)を設けています。寄付をいただいた場合、個人住民税等において優遇措置を受けることができます。

伏見区に寄付いただける場合は、寄付申出書の応援メニュー欄に、「文化・景観・環境・地域振興(伏見区)」と記載してください。
詳しくは、リーフレット、ホームページを御覧ください。

だいすきっ!京都。

検索



「さんあいしんぶん」の発行 《御霊ヶ下・大構町内会》

連絡先 ☎075-571-7569 ✉nara@dd.ij4u.or.jp(奈良)

地域(町内・学区)の情報をクローズアップして編集することで、地域への関心を改めて引き出し、自治会、町内会活動が日常生活と密接にリンクしていることを知らせ、未加入会員への加入勧誘のきっかけ作りと、会員間のコミュニケーションの強化ツールとする事業です。限られた紙面ですが、写真を多用することにより「百聞は一見にしかず」との言葉通り、多くの視覚的情報発信を心がけ、親しみを持って見ていただいています。



身近な情報提供を求めています、提供が少ないのが寂しいです。ちょっと注意して観れば面白いことがいっぱいあるはず。

認知症の人もそうでない人もそうでない人も
みんなずっとこの地域で暮らして行ける 《ちえのわ》

連絡先 ☎070-5431-9498 ✉e-27sata@kfx.biglobe.ne.jp(佐田)

原則として毎月第3火曜日の午後に「ちえのわ」を開催しています。医師をはじめ様々な専門職の講座を通して、認知症が身近でない方にも正しい知識を持って頂きたい。それが、どなたにとっても暮らしやすい地域作りにつながるのでは、との思いで活動しています。座学だけではなく、口腔体操、脳トレなども適宜行っています。またカフェタイムを設けていて、時には季節のお菓子をみんなで作ったりしながら和やかで自由な時間を過ごしています。介護中の方にとっては経験者との交流や専門家への個別相談の場となっているようです。



11月22日の講座の様子

行政(市、区)、他団体(社協、包括等)との交流を通してネットワークの構築を図っています。伏見署での「認知症サポーター講座」でもお話をする機会を得るなど大変有意義な経験を今後の活動に生かして行きたいと思っています。



災害の教訓に学ぶ 冊子の制作事業 <<下鳥羽自治連合会>>

連絡先 ☎075-611-6595(今村)

平成25年台風18号の甚大な被害が発生した下鳥羽地域における各団体の活動の記録をまとめた冊子を作成しました。今後、来るべき災害に対して、地域としてどういった対策を講じ、どのように実行していくべきかを多角的に検討することで、今後の災害に備え改善すべき点等を把握できました。今後は、今回作成した冊子を防災訓練の際のテキストとして活用します。



災害への備えをすることで安心を得ることはもちろんですが、より強固に地域の結束を図ることができ、地域に対する愛着が深まりました。

第一回淀夏祭り <<淀催事の会>>

連絡先 ☎075-631-1889(廣澤) ✉tora.tora.torazou@softbank.ne.jp

淀地域は学区単位でのお祭りもなく、住民が参加できるイベントが非常に少なく交流が希薄な状態にあります。そこで、これらの課題を踏まえて地域住民が参加できる夏祭りを実施し、健やかな暮らしを支えるまちづくりを目指します。

平成28年8月14日に淀城公園にて【第一回淀夏祭り】を実施しました。会場の中心部に櫓を設置し、そこを囲うように協力店や遊戯場を設置しました。当日、約950人の方々に参加していただき、午後3時から7時までの4時間という短い間でしたが、大変好評でした。



初めての開催でしたが、開催時刻前には子供たちが集まりだし、前倒しで開演しました。沢山の方が集まり、中には子供を連れた若いお父さんお母さん達が久しぶりに会い、まるで同窓会のようなようでした。「今まで盆休みに帰ってきても実家で遊ぶだけで淀の町に出なかったが、このようなイベントがあれば帰省時の楽しみにする。」とってもらいました。又、終了後の会場片付けも来ていた方々に協力していただきスタッフ皆感謝していました、これが地域皆が協力し合うイベントだと思いました。



藤森神社ラジオ体操の会 <<藤森神社ラジオ体操の会>>

連絡先 ☎090-6910-3132(会長:田中)

高齢者はともすると、一日中他人としゃべることもなく、引きこもりがちとなり、その健康維持が地域社会の重要課題となっています。

そこで、17年前に地域の有志が集まり、藤森神社で毎朝6時半からラジオ体操を始めたところ、当初10人程度であった参加者が、評判が広まり毎回50人程度が参加するようになりました。四字熟語を使った頭の体操も楽しんでいます。

今回、区民活動支援事業に採択されたことにより広報活動がしやすくなり、特に深草ふれあいプラザでPRできたことには、当会が体操だけでなく情報交換の場として、より親しまれる効果がありました。



早く来た人は自主的にラジオの準備、夏には水まき、秋には落葉の掃き掃除をします。「これも体操のうち」と、参加者がいきいきしてきました。



児童通学路交通安全対策及び車両に対し啓発活動

<<久我の杜交通安全推進委員会>>

連絡先 ☎075-922-2246 ✉run-hamtakaob@outlook.jp(小幡)

近年、小規模開発が進み、道路が狭く迷路状態となり、在来の抜け道と繋がり、交通事故が多発しています。そのため、地域見守り隊をはじめ地域のボランティア、小学校、父兄等の協力で地域の児童の安全指導を行っていますが、警察の設置した標識だけでは足りないことから、地域の危険な箇所を調査し、関係各所に設置の許可を取ったうえで全34箇所に標識を設置しました。

まだまだ、危険な箇所はあるので、今後も順次進めていく予定です。



地域の方や小学校からお礼を言われるなど、交通安全推進委員会の会員の方にはご苦勞をかけましたが報われた気がします。



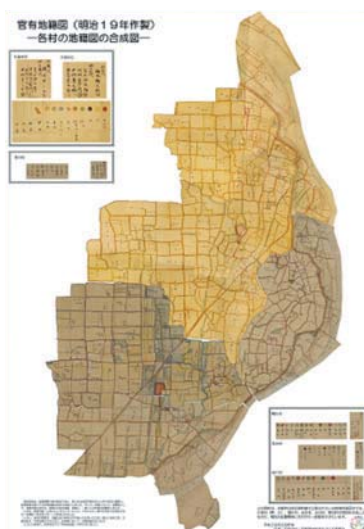
神川出張所区民交流スペースの展示物のリニューアル 地域の歴史・文化の発掘・発信活動 《久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会》

連絡先 ☎075-921-0028 (事務局:神川出張所)

平成25年5月に神川出張所が移転の際に、地域の歴史的・文化的な情報を発信することを目的に、地域の沿革や年表などを作成して展示していましたが、今回、平成27年国勢調査結果が公表されるのに合わせて、展示物のリニューアルを行いました。明治中期以降から京都市に編入される当時までの地図資料4点と、事実確認による校正をした沿革には編入時の地名に関する地図を加え、年表や人口の推移の資料など、計8点を作成しました。



久我、羽束師の両村の所管区域が桂川左岸にあったとは…。耕地整理法施行前に耕地整理に取り組んだこと、桂川改修による引堤など、地域の歴史を改めて知ることができました。



鴨川運河 ～発見・発信&発進～ 《鴨川運河会議》

連絡先 ☎080-5438-3806 ✉kamoun.ukai@gmail.com (鵜飼)

伏見を南北に走る「鴨川運河」の魅力を地域や市民の方々に発見してもらおうと、様々なイベントを行っています。

ウォーキングや音楽&カフェで「水辺」を楽しみ、シンポジウムや地域イベントでの広報展示から歴史的価値や文化・暮らしの変遷を知り、活動報告会&交流会で多世代が交流し、より多くの地域住民や市民が「鴨川運河」に愛着を感じてもらえるよう、新たなまちづくりの形態として継続的な活動を行っています。



少しずつ「鴨川運河」の存在を知ることが増えているようで、イベントのチラシを心待ちにされる方も多くなりました。また、古写真の提供など、情報提供をいただくことが増えています。



地域力で行うロコモ予防 《伏見ロコモ予防クラブ》

連絡先 ☎075-631-1215 (矢野)

超高齢化時代に向けて、この淀地域に住んでいる人たちがいつまでも健康で元気に生活していくために、「健康年齢と平均寿命をより近く!」を目指して活動しています。

そのために、インストラクターの指導による月1回の水中ウォーキングや年2回のポールウォーキングを実施しています。

健康増進を図るロコモ予防だけでなく、地域の人々の交流の場として、地域の活性化を目指します。



水中ウォーキングやポールウォーキングの帰りに、皆様の達成感に満ち溢れた笑顔が印象的でした。今後も楽しみにしていただけよう、頑張って企画していきたいです!



向島多文化交流 《アジア・アフリカとびっきり映画祭実行委員会》

連絡先 ☎0774-25-2630 ✉fro@po.kbu.ac.jp (京都文教大学フィールドリサーチオフィス)

文化交流事業を通して、伏見区南部地域のみなさんや在日外国人・留学生・大学生が交流し、相互理解を深めることを目的に活動しています。今年度の活動は、①アジア・アフリカとびっきり映画祭、②中国まつり、③インターナショナルラジオの実施です。楽しくふれ合うことに加えて、多世代の関わりに重点を置いています。12月には子どもから年配の方まで地域の方が参加した交流会(クリスマス会)を行い、参加者全員でのお菓子づくりや、留学生によるダンス・歌などのパフォーマンスで会場が大いに盛り上がりました。



交流会では、子どもから年配の方まで、多世代の方に参加いただきました。意外と地域にお住まいの外国の方と留学生との交流が少なく、もっと機会の創出を行いたいと思いました。



五感でごはん ～親子で体験 食育プロジェクト～

《五感でごはん実行委員会》

連絡先 ☎ gokandegohan@gmail.com (弘田)

市民農園「風緑」で無農薬栽培された野菜の収穫を体験し、子どもたちが自分で食べ物を選ぶ力を身に付けることを目標に食育イベントを実施しました。5月にはタケノコ掘り、12月には水菜とネギの収穫を行い、自然の中で、五感で旬の食材を味わいました。親子で体験していただくことで、日々の食事を見直すきっかけ作りになったのではないかと思います。また、食育プロジェクトを通して、地域での交流を広げることにもつながりました。



私たちにとっても、収穫して旬の野菜を味わう経験は貴重なものでした。自然や生活、地域について改めて振り返るきっかけになりました。



地域の人と人をつなぐだいがキャンドル

《だいがキャンドルプロジェクト》

連絡先 ☎ 075-571-0035 (醍醐いきいき市民活動センター) ✉ daigocandle@gmail.com

醍醐地域の人と人とがつながるきっかけとして、昨年度に続き、醍醐駅横の折戸公園にて、地域の皆さんの想いや願いが込められた紙コップにキャンドルを灯す取組を企画しました。これまで接点のなかった多様な人たちが集まり、地域の保育園や幼稚園、小中学校、高校、公共施設、事業者など、多くの皆さんのご協力を得て、新たな地域のつながりが生まれています。活動の詳細は、下記をご覧ください。

<https://www.facebook.com/daigocandle/>



この取組をきっかけに、様々な方との出会いやつながりを作ることができました。このつながりを大切に、さらに良い地域となるよう取り組んでいければと思います。



醍醐中山団地での交通安全教室

《京都橘大学 地域連携センター》

連絡先 ☎ 075-574-4342 (高島・重山) ✉ occ@tachibana-u.ac.jp

伏見区醍醐中山団地住民の方を対象に、居住する地域の危険箇所や交通安全に関する注意を喚起することを目的に、山科警察署、市土木管理課、市自転車政策推進室より講師をお招きして、「交通安全教室」を実施しました。また、本学教員による、住民の方が家庭で使える「醍醐中山団地周辺安全マップ」を作成するためのワークショップも行われ、同地区に住む本学の学生も交えて、気を付ける必要がある場所や今後の課題などについて、活発な意見が交わされました。

平成29年2月には、子どもたちを対象とした「自転車教室」を開催しました。



住民の皆さんが日ごろ感じていることをこの場で共有し、再確認できたことで、交通安全に対する意識を強めて頂ける意義のあるワークショップとなりました。



子育て支援と異年齢の交流を行う

《笑顔いっぱい会》

連絡先 ☎ 075-202-3474 (ふれあいカフェトハウス 松井)

子育ての孤立化、高齢者の一人暮らしなどの地域の課題に対して、子育て支援と異年齢の交流を企画しています。

子育て支援の「子育てほっとタイム」は、毎月第2木曜に実施、元保育の専門職が担当し、ふれあい遊びやお母さん同士の語らいの場、おばあちゃん世代との交流の場としています。

異年齢の交流は、音楽会・手作り教室・戦時中のお話を聞く会・人形劇鑑賞などのきっかけづくりの事業を通して、いろんな世代の方々に交流して頂けるようにしています。



子育てほっとタイムには、乳児・幼児さんとお母さんを中心に、これから初めての出産を迎えられる方までご参加いただきました。異年齢の交流では、98歳男性をはじめ戦時中の貴重なお話を聞くことが出来ました。



4 採択団体の取組紹介 (2) 小規模枠

久我やすらぎルーム 《久我自治連合会》

連絡先 ☎075-921-3278 ✉shirou.k@kyoto.email.ne.jp (河村)

みんなが集える「うたごえルーム」

高齢者が「外に出て楽しく歌おう」を合言葉に、居場所づくりの取組として平成28年4月から「うたごえルーム」を始めました。毎月1回の定例会では約50人の参加があり、唱歌や童謡、ポップスも交え15曲ほど歌っています。みんないきいきと大きな声を出して歌っています。珈琲など飲み物を出してくれるボランティアも誕生しました。参加者からは「夫が急逝してから自宅にひきこもっていましたが、うたごえルームに参加して心晴れ晴れして生きる楽しみができました。」と、喜びの声も出ています。



自宅に引きこもっているより外で楽しめる「居場所づくり」を考えました。特に女性に好評です。「カラオケルーム」も月1回開いています。歌いに来てね!



「うたごえルーム」で、童謡などを楽しく歌う人たち

久我食育推進事業 《久我土ん子クラブ》

連絡先 ☎080-1420-3259 (久道)



今なお多くの農地が残る「田園都市」久我地域の魅力を発信するため、また、「食」と「農」に対する理解を深めて食生活をより豊かなものにするため、久我市民農園において食育イベントを開催しました。野菜の旬について学ぶ「夏野菜食育教室」、日本が誇る食文化である「だし」についての理解を深める「だしで味わう冬野菜」など、それぞれテーマを決めて実施しています。



京都市が認定する食育指導員との連携が、成功の鍵でした。今後も継続して開催できたらと思います。



ヨシ灯り展 《伏見楽舎(ふしみがくしゃ)》

連絡先 ☎075-611-4714 ✉info@fushimigakusha.org (松井)

伏見区向島宇治川沿いに古くから自生しているヨシを活用して、親子で地元産のヨシの大切さを体験・実感をしていただくため、地元の小学校児童にヨシ灯り展用オブジェの制作を指導して、物作り体験による達成感を味わってもらいます。

向島小学校3年生児童がオブジェ制作に真剣に取り組む、家族参観日に図書室に陳列して親子で見学し、暗室で幽玄の世界を演出し、雰囲気を楽しみました。



物作りに真剣に取り組む個性を發揮しながら徐々に形が出来上がる体験をしていました。宇治川沿いの小学校が参画した伏見の観光事業にしたいと思います。

高齢者施設を訪問し、朗読・読み聞かせ等を通して「笑顔のふれあい活動」 《お話の会 すずらん倶楽部》

連絡先 ☎090-9888-2644 (辰巳)

様々なジャンルの紙芝居や本の読み聞かせを、健康な方、リハビリ中の方、認知症の方等の集われる地域施設への訪問によって、皆さんに楽しんでいただきます。参加者による音読フィットネスで心身のリフレッシュ等も取り入れ、人と人との温かい繋がりを共感し、伏見での心豊かな暮らしを支えることを目指しています。

クリスマス会等の季節の催しもあります。内容をより高めるため、お話の会で必要な物の制作活動もしていますが、参加者の皆さんの感激の笑顔が広がります。



伏見の地で初めて9年、訪問回数630回。親しみが深まり、参加者の方から、次回へのリクエストやアイデアの提案などの声があがります。一緒にお話の会を盛り上げていくという繋がりを大切に、本を携えて、自転車に乗って走って行きます。



パネルシアターの制作と実演 《チーム・ノーマライゼーション》

連絡先 ☒ cafe.jurin@gmail.com (齋藤)

みんなで学ぶパネルシアター

私たちチーム・ノーマライゼーションは龍谷大学内にある「café樹林」を拠点に障害者と学生が交流し、共に学び合っています。その活動の一つとして行っているのが幼児教育・地域交流を目的としたパネルシアターです。伏見区内の児童館や神社などで幼児から小学生を対象に行っています。障害者と学生が子ども達の学びにつながるように、工夫を凝らしながら作成し、子ども達と共に楽しみながら講演しています。



独自の魅せられる作品を試行錯誤しながら作成し、子供達はもちろん、私たちも自身も一体となり、みんなで楽しめる講演をさせていただきました。



【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当 (電話611-1295)

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話611-1144)

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話642-3203)

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話571-6135)



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

